

第 17 回小山田大龍地区まちづくりを考える会まちビジョン準備会
及びまちビジョン全体会報告書

2024. 6. 26

Pm6:00～7:40

場所；大龍会館

■第 17 回準備会

参加者 会長他 18 名 市 3 名 アドバイザーの計 22 名

1.大谷会長のあいさつ

2. 前回の報告（アドバイザー）と参加者の感想について

- ・奈良ばい谷戸の表現の是非について、由来や呼び方「奈良べえ谷戸」あるいは「奈良べー谷戸」が地域では呼ばれている。
市は印刷物の中では「奈良ばい谷戸」しており表現は今後調整する。

3.拠点施設の経緯について（報告）

大龍地区のまちづくりの状況やモノレール下の道路計画も残っている。その様な事から忠生地区の検討会幹部が週末に大龍地区を視察に来ることになった。

（拠点施設についての市のアンケートについての意見）

- ・上小山田は下小山田に比べると公有地が少ない
- ・山林を含め公園化するとなれば東谷戸に道路を通して欲しい、その際は町内会としては道の駅（のような）を設置してほしい。
- ・現段階では大龍地区には設置計画はないのでは？

（市側の見解）

拠点施設は小山田地域の山林を活性化するためのきっかけとなる施設と位置付けている。場所はまだ決定していない。

① 山林の再生

② 企業の参入

③ 市有地の活用（民地活用の可能性もある）

以上の点から市有地で建物（スケルトン）を市が建設し、設備や内装などの仕上げは事業者ということで検討中。

事業継続の観点からは、市が経営にタッチしていく事は考えていない。

企業参入はその点で重要で地域の方たちと共に継続していく事が必要。

（意見）

- ・土地利用など法規制が厳しい地域であり行政の支援は必要

- ・企業を支援する形で市の支援は必要
- ・企業が参入しないと施設の経営継続は困難だろう。
- ・小田急さんはこの地域に多くの山林を所有しており一緒に参加できないか。
- ・山林の管理は個人では経済的に困難な状況で行政（都、市）の支援が必要。
- ・施設については市街化調整区域内に建築が可能なのか。

（会長）

拠点施設の話は今後の事として現段階では今地域で行っている祭りなどの事業を活性化し、議論してきた地域の財産の活用などを図ることを優先したい。

4. 街づくり審査会（6/26 開催）の市報告

「大龍地区のまちビジョン」は全体的に好意的に受け入れられたと考えている。3点ほど意見を頂いた

- ① 歴史的「遺物」の表現ではイメージとして終わった感がある。他の表現で地域の財産だと分かる表現が良い。
- ② 歴史的遺物はその背景も大切に知らせる手立ても必要。
- ③ まちづくりが地域内で完結しようと思えてしまうが外からの力（PR）も大事。

以上のご意見を頂いた。今後考える会での議論も踏まえ審査会手続きを進めていきたい。

5. その他の報告

今後のまちづくりの展開を考え、東谷戸を横断する道のネーミング（東谷戸街道のような）を検討していきたい。

5. 次回は 7/17（水）大龍会館 Pm6：00～

※9月14日の秋祭りの準備等も議題とする